

FA class

狙いは満点での最終戦出場 念願のチャンピオンに向けて 保坂光俊、完全優勝

昨年、あと一步のところまでタイトルに手が届かなかった保坂光俊。それだけに、タイトル獲得にける意気込みは、このクラスに出場しているどの選手よりも強い。これまで4戦して2



戦、西地域は、これが第5戦。この大会をいれあと2戦をどう闘うかで、最終戦を迎えた時点でのポジションが変わってくる。

前日のFSAの予選を見て判断したのか、保坂はTで正順スタートを選択する。真つ先にコースインしタイムアタックに入る保坂。正順の場合、最初にタイムを出さなければならぬ不利はあるが、比較的路面が荒れていない状態で走れるというメリットもある。

今回は、その保坂の選択がピタリと当たる。

保坂のタイムを目標に、次々とタイムアタックが続くが、刻々と条件が悪化していくなかで、誰一人そのタイムを破ることができない。

予選A組のPPを獲得した保坂は、両ヒートとも制覇。自身初となる決勝PPを獲得する。その間、2ndグリッドには同じく予選両ヒートを制した高橋和則が並ぶ。

決勝では、保坂と高橋によるトップ争いが序盤のうちは展開。しかし、徐々に差を詰め始める保坂に、高橋はついていくことができない。

「前半はキャブのセットを合わせきれなかった。でも、ベースが固めてからはかなり余裕を持って走ることができた」という保坂は、レース中盤にして1秒以上の差をつけると、17周目には2秒、20周目には3秒と、ジリジリと高橋を引き離していく。高橋も単独2番手を走りながら保坂を追うが、その差は開く一方。結局、最後は5秒近い大差を築いた保坂が、今季3勝目。

「今回は初めてのポールも取れたし、満点に近いですね。でも、チャンピオンとなると……。最終戦がどうなるかわからない。次の琵琶湖も勝って、満点で最終戦へ行きたいです」

圧倒的なスピードを見せつけ、中山を制した保坂。その先にあるのは、待ち望んだチャンピオンの座。

FR class

混迷極めるFR 伊藤泰久が 今季5人目のウィナーに

これまで、大会ごとに優勝者が変わっているFRクラス。今回も、新たなヒーローが誕生することとなる。

Tトップタイムをマークしたのは森伊藤泰久。2番手には山田悠貴。3番手に伊藤泰久がつける。3組に分けられた予選では、この3人がそれぞれの組をトップで通過。予選でもTのタイム順にグリッドを獲得する。しかし決勝レース、トップ争いを展開したのは伊藤と4也弟小浜友和。両者は接近戦を展開しながら、周囲を重ねる。その後方では、山田がチャンスを伺うが、両者の間に割り入ることはできない。



FR (西) 終盤は独走状態に持ち込み、初優勝を飾った伊藤泰久。これで西地域FRクラスは5人目のウィナー誕生だ

次戦開催日程

全日本カート競技選手権

西地域第6戦：琵琶湖スポーツランド
(9月1日)

◎第6戦のレースレポートは、本誌11月号(10月1日発行)にて掲載いたします。

'96 全日本カート競技選手権 西地域第5戦 [RESULT]

Pos	No	DRIVER	TEAM	FRAME	ENGINE	TIME	TT	Q1	Q2	Q3
FAクラス(48名)										
1	2	保坂光俊	(JAFRC)	ハッセル	ロータックス	85	29'757	A1	A1	◎
2	3	高橋和則	(TJ&C)	トニーカート	ロータックス	85	29'803	B1	B1	◎
3	4	山田悠貴	(RT Spar-e)	CRG	ロータックス	85	29'931	A4	A3	◎
4	5	伊藤泰久	(TJ&C)	ハットレス	ロータックス	85	29'919	B2	B2	◎
5	6	伊藤泰久	(JAFRC)	CRG	ロータックス	85	30'185	A5	A4	◎
6	7	伊藤泰久	(TJ&C)	CRG	ロータックス	85	29'925	A2	A2	◎
7	8	伊藤泰久	(JAFRC)	CRG	ロータックス	85	30'340	A3	A2	◎
8	9	伊藤泰久	(JAFRC)	CRG	ロータックス	85	30'024	B3	B3	◎
9	10	伊藤泰久	(TJ&C)	CRG	ロータックス	85	29'977	B4	B2	◎
10	11	伊藤泰久	(TJ&C)	CRG	ロータックス	85	30'218	A6	A5	◎
FRクラス(48名)										
1	12	伊藤泰久	(JAFRC)	ハットレス	ロータックス	85	29'910	A1	A1	◎
2	13	伊藤泰久	(JAFRC)	ハットレス	ロータックス	85	30'219	A2	A2	◎
3	14	伊藤泰久	(JAFRC)	ハットレス	ロータックス	85	29'938	B1	B1	◎
4	15	伊藤泰久	(JAFRC)	ハットレス	ロータックス	85	30'068	C1	C1	◎
5	16	伊藤泰久	(JAFRC)	ハットレス	ロータックス	85	30'266	B4	B2	◎
6	17	伊藤泰久	(JAFRC)	ハットレス	ロータックス	85	30'200	B3	B3	◎
7	18	伊藤泰久	(JAFRC)	ハットレス	ロータックス	85	30'238	B5	B5	◎
8	19	伊藤泰久	(JAFRC)	ハットレス	ロータックス	85	30'387	C2	C2	◎
9	20	伊藤泰久	(JAFRC)	ハットレス	ロータックス	85	30'439	C4	C3	◎
10	21	伊藤泰久	(JAFRC)	ハットレス	ロータックス	85	30'200	A3	A4	◎

となる14周目を過ぎたあたりから、徐々に伊藤が抜け出し、独走。逆に小浜は山田との2番手争いを展開することとなる。23周目に2秒以上のマージンをP争うことに成功した伊藤は、その後も安定した走行を続け、そのままチェッカー。今季5人目のウィナーとして名乗りを挙げた。



FSA TTでの流れが最後まで誓ったものの、チャンピオンにふさわしい追い上げを見せたのは松本隆弘。147周目の2コーナで昇格圏裏一をかわし2番手に浮上

FSA レース終盤まで続いた東大竹時幸と非金石羊弘の4番手争い。終盤、エンジンが熱くなった東石を抑え、大竹が4位入賞



スピードでは、決して負けてはいない
でも、それだけでは超えられない
何かが、ある……

最後尾からも遠かに海れたボジションから、スラットを全開なくされたのだ。また、スラットを開くと佐野も、ローリング中のクラッシュをまげようと失速。集団から離れてのスラットとなる。

それらとは対象的に、好スタートを切ったのが津田。その直後に脇阪、大竹、金丸らがつける。トップの津田には脇阪が迫るが、なかなか抜くことはできない。

その間に、大竹と金右が騒殿との差を詰め、2番手争いが激化。

「うまいこと2番手争いが集団になってくれて……」と、津田はこのチャンスに後続との差を広げる。

一方、後方からはT.T. 予選と出遅

ンを挙げていた。また、樋口もファーストストラップを記録する勢いで、

次々と前のマシンをかわし、上位へと進出してきた。

完全な独走態勢を築き上げた津田だったが、レースが後半に入ると若干ペースが落ちてくる。その津田を激しく追ったのが、16周目に4位、19周目には2番手へと上がってきた松谷。松谷は2番手集団を抜け出すと、周回ごとに津田との差を縮めていく。

しかし、津田も最後にベースアップを図る。

「後半に入って、守りの走りをしたら
アンダーがでてベースが遅くなつてし

まった。でも、松倉君が2位に上がったのはすぐに分かったから、その後は

もう一度攻め始めたんだ」
 追う側の松谷も、最後はアクセルを

「おれは、おれは」

「2番手に上がってからは、あまり
回数も残ってなかったので、少しでも
追い付けばブラッシュャーをかけられる
と思っていた。でも、ラスト4周くら
いで、追い付かないと思って2位キ
ューに変えたんだ」

若手選手の台頭がささやかながら、これまでベテラン勢が表彫向を占めてきたFSA。今回はその流れが変わるかと思われたが、またも厚い壁が立ちはたがる。

「自分の走りが、あまり良くなかったからな」

と、連覇がちな小さなガツボーズで
チェッカーを受けた津田。そしてチャ
ンピオンらしい落ち着いたレースを見

せた桜合。3位にこそ、白熱した3番手争いを同じ強者が入ったものの、若

手への世代交代は、まだまだベテラン勢が許しきらない。


 TAYLOR & FRANCIS
 GROUP

SA クラス第3戦 (RESUL)				
	1位	2位	3位	4位
タイム	29'44.8	29'48.8	29'51.8	29'54.8
タイム	29'58.8	30'02.8	30'05.8	30'08.8
タイム	30'12.8	30'16.8	30'19.8	30'22.8
タイム	30'26.8	30'30.8	30'33.8	30'36.8
タイム	30'40.8	30'44.8	30'47.8	30'50.8
タイム	30'54.8	30'58.8	31'01.8	31'04.8
タイム	31'18.8	31'22.8	31'25.8	31'28.8
タイム	31'42.8	31'46.8	31'49.8	31'52.8
タイム	32'06.8	32'10.8	32'13.8	32'16.8
タイム	32'30.8	32'34.8	32'37.8	32'40.8
タイム	32'54.8	32'58.8	33'01.8	33'04.8
タイム	33'18.8	33'22.8	33'25.8	33'28.8
タイム	33'42.8	33'46.8	33'49.8	33'52.8
タイム	34'06.8	34'10.8	34'13.8	34'16.8
タイム	34'30.8	34'34.8	34'37.8	34'40.8
タイム	34'54.8	34'58.8	35'01.8	35'04.8
タイム	35'18.8	35'22.8	35'25.8	35'28.8
タイム	35'42.8	35'46.8	35'49.8	35'52.8
タイム	36'06.8	36'10.8	36'13.8	36'16.8
タイム	36'30.8	36'34.8	36'37.8	36'40.8
タイム	36'54.8	36'58.8	37'01.8	37'04.8
タイム	37'18.8	37'22.8	37'25.8	37'28.8
タイム	37'42.8	37'46.8	37'49.8	37'52.8
タイム	38'06.8	38'10.8	38'13.8	38'16.8
タイム	38'30.8	38'34.8	38'37.8	38'40.8
タイム	38'54.8	38'58.8	39'01.8	39'04.8
タイム	39'18.8	39'22.8	39'25.8	39'28.8
タイム	39'42.8	39'46.8	39'49.8	39'52.8
タイム	40'06.8	40'10.8	40'13.8	40'16.8
タイム	40'30.8	40'34.8	40'37.8	40'40.8
タイム	40'54.8	40'58.8	41'01.8	41'04.8
タイム	41'18.8	41'22.8	41'25.8	41'28.8
タイム	41'42.8	41'46.8	41'49.8	41'52.8
タイム	42'06.8	42'10.8	42'13.8	42'16.8
タイム	42'30.8	42'34.8	42'37.8	42'40.8
タイム	42'54.8	42'58.8	43'01.8	43'04.8
タイム	43'18.8	43'22.8	43'25.8	43'28.8
タイム	43'42.8	43'46.8	43'49.8	43'52.8
タイム	44'06.8	44'10.8	44'13.8	44'16.8
タイム	44'30.8	44'34.8	44'37.8	44'40.8
タイム	44'54.8	44'58.8	45'01.8	45'04.8
タイム	45'18.8	45'22.8	45'25.8	45'28.8
タイム	45'42.8	45'46.8	45'49.8	45'52.8
タイム	46'06.8	46'10.8	46'13.8	46'16.8
タイム	46'30.8	46'34.8	46'37.8	46'40.8
タイム	46'54.8	46'58.8	47'01.8	47'04.8
タイム	47'18.8	47'22.8	47'25.8	47'28.8
タイム	47'42.8	47'46.8	47'49.8	47'52.8
タイム	48'06.8	48'10.8	48'13.8	48'16.8
タイム	48'30.8	48'34.8	48'37.8	48'40.8
タイム	48'54.8	48'58.8	49'01.8	49'04.8
タイム	49'18.8	49'22.8	49'25.8	49'28.8
タイム	49'42.8	49'46.8	49'49.8	49'52.8
タイム	50'06.8	50'10.8	50'13.8	50'16.8
タイム	50'30.8	50'34.8	50'37.8	50'40.8
タイム	50'54.8	50'58.8	51'01.8	51'04.8
タイム	51'18.8	51'22.8	51'25.8	51'28.8
タイム	51'42.8	51'46.8	51'49.8	51'52.8
タイム	52'06.8	52'10.8	52'13.8	52'16.8
タイム	52'30.8	52'34.8	52'37.8	52'40.8
タイム	52'54.8	52'58.8	53'01.8	

	平假名	片假名	英語
ア	あ	A	a
イ	い	I	i
ウ	う	U	u
エ	e	E	e
オ	o	O	o
カ	か	K	k
キ	き	KI	ki
ク	く	KU	ku
ケ	け	KE	ke
コ	こ	KO	ko
サ	さ	S	s
シ	し	SHI	shi
ス	す	SU	su
セ	せ	SE	se
ソ	そ	SO	so
タ	た	T	t
チ	ち	CHI	chi
ツ	つ	TSU	tsu
テ	て	TE	te
ト	と	TO	to
ナ	な	N	n
ニ	に	NI	ni
ノ	の	NO	no
ハ	は	H	h
ヒ	ひ	HI	hi
フ	ふ	FU	fu
ヘ	へ	HE	he
ホ	ほ	HO	ho
マ	ま	M	m
ミ	み	MI	mi
ム	む	MU	mu
メ	め	ME	me
モ	も	MO	mo
ヤ	や	Y	y
ユ	ゆ	YU	yu
ヨ	よ	YO	yo
ラ	ら	R	r
リ	り	RI	ri
ル	る	RU	ru
レ	れ	RE	re
ロ	ろ	RO	ro
ワ	わ	WA	wa
ヰ	ゐ	WI	wi
ヱ	え	WE	we
ヲ	を	WO	wo
ヾ	ん	NN	nn

[illegible]

カートリッジ

全日本

'96	
Pos.	Fin.
PGA	7
1	21
2	24
3	30
4	32
5	35
6	37
7	38
8	38
9	39
10	39

'96 全日本カート競技選手権 FSA クラス第3戦 [RESULT]										
Pos.	No.	DRIVER (TEAM)	FRAME	ENGINE	TIME	TT	GP	GP	GP/500	
FSAクラス(30名)										
1	全日本選手権	HAAKE (NT)	ハルマ	ホンダ	005	29'44.8	001	001	1	
2	全日本選手権	HAAKE (NT)	ハルマ	ホンダ	005	29'78.0	A-6	A-7	2	
3	全日本選手権	AISO (MS)	ゼレン	ローテックス	005	29'20.1	A-4	A-5	3	
4	全日本選手権	アサヒマシ	タカマシ	イシノリキスラム	DL	29'18.9	A-4	A-5	4	
5	全日本選手権	App (マサダ)	マサダ	イシノリキスラム	DL	29'58.1	B-4	B-5	5	
6	全日本選手権	TONY HART JAPAN	ニース	ホンダ	005	29'17.3	A-3	A-4	6	
7	全日本選手権	アサヒマシ	タカマシ	イシノリキスラム	DL	29'58.4	A-4	A-5	7	
8	全日本選手権	アサヒマシ	タカマシ	イシノリキスラム	005	29'50.7	A-5	A-6	8	
9	全日本選手権	アサヒマシ	タカマシ	イシノリキスラム	005	29'52.0	B-3	B-4	9	
10	全日本選手権	アサヒマシ	タカマシ	イシノリキスラム	DL	29'50.8	B-4	B-5	10	

'96 ALL JAPAN KARTING CHAMPIONSHIP

全日本カート競技選手権シリーズ

FSAクラス第3戦 西地域第5戦 7/13~14

中山カートウェイ【岡山県】

天候:晴れ 路面状況:ドライ PHOTO:長谷川 徹

例年と同じく、灼熱の太陽に照らされた中山カートウェイ。2 DAYS開催となったFSAクラスは、土曜日にTTと予選第1ヒートを行う。このTT、予選で上位に進出してきたのは、シリーズの流れを変えたい若手ドライバー達。しかし、決勝日にはベテラントライバーの反撃が待ち受けていた。

世代交代はまだ早い 若手の台頭を抑え込む ベテラントライバーの厚き壁

FSA class
流れを変えたい若手の前に
立ちはたかる厚い壁
津田浩次、中山2連勝

土曜日の午後から始まった公式スケジュール。公式練習の頃から路面にのり始めたゴムは、TTが始まる頃にはすでにコーナーを思く染めていた。

ゼッケン逆順で出走となったTT。今季2度目の参戦となる菊脇政一が、トップタイムをマークし、予選A組のPPを獲得する。TT2番手は菊脇政一、3番手に菊中尾義彰、4番手菊直井秀樹と若手選手が上位を独占する。一方、開幕2連勝を飾っている佐野和志は9番手、ヨーロッパ戦で調子を上げ中山にきた松谷隆郎は15番手と、出遅れてしまう。

A・B2組に分けて行われた予選ヒート。第1ヒートでは、A組を好調の松谷隆郎が、Bグループを昨年もこの中山で優勝している津田浩次が制す。第2ヒートからは、翌日曜日の開催。それぞれの思惑を秘め、夕間がサーキットを包み込んでいく。

明けた日曜日、真夏の太陽が路面温度を上昇させる。そんな灼熱なコンディションのなか、淡々とレースを進めたのが津田。Bグループの予選第2ヒートでも優勝し、予選をトップで通過。決勝PPを獲得する。対するAグループは、激しいバトルを繰返が制し、決勝2ndグリッドを獲得。この両者に、ベテランの3rd菊大竹時幸、4th松浦さらに今期好調のヤマハワークス重金石年弘らが、決勝でどんなレースを見せるか注目される。

迎えた決勝レース。ローリングで早くも波乱が起きる。隊列から遅れた松浦が、正規のポジションに戻ろうとして

'96 ALL JAPAN KARTING CHAMPIONSHIP

全日本カート競技選手権シリーズ

FSA第3戦 8/4

新東京サーキット(千葉県)

天候:晴れ 路面状況:ドライ PHOTO:伊藤 均

ポイントレースをリードしたいベテラン勢。
混戦を招いた、暑さとスポット参戦組。
タイトル争いは大混戦!



朝、日は陰り、8月にしては、やや過ごしやすい気温だった。

しかし、TTが終わったところから、日が差し始め、気温もぐんぐん上昇。

ポイントレースをリードしているベテラン勢にとって、

最大の敵は暑さになるかと思われた。

事実、予選からサバイバルレースになり、レースは荒れに荒れた。

しかし、ベテラン勢の敵は暑さだけではなかった。

FAクラスからのスポット参戦選手がレースを左右するほどの走りをみせたのだ。

ベテラン勢にとって走り慣れたはずの新東京サーキットは、苛酷な戦場となった。

FSA class
ハッセRTのワンツーフィニッシュを
阻止したのは、FAから
スポット参戦の上原三義!

TTトップは4番手、2位の小野尾司にコンマ1秒以上の差をつけてのトップだ。現在ポイントランキングトップの佐野和志は26位と大きく出遅れる。また、今回FAクラスよりスポット参戦の菊川口慶大が4位、8上原三義が6位と大健闘をみせた。

上原はその後もベテラン勢を追い詰める。Bグループ予選1日目にはPPスタートの小野尾を激しいアタックの末かわし、トップでフィニッシュ。2日目もトップを快走するが、10周目にエンジントラブルのため、惜しくもリタイア。決勝グリッドを上げてしまう。上原脱走の後、トップに立ったのは、ヨーロッパ選手権で5位にランクインして好調の松谷隆博。松谷は危なげない走りで見位を繰走。2番手、並走風勢大に5秒以上の大差をつけてゴール。きっちり、決勝フロントローにおさまった。

予選Aグループを制したのは、ポイントランキング2位の津田浩次。津田はTT9位からじりじりとポジションアップ。2日目、TTトップの荻原を序盤でかわし、追いつける御金石年弘を振り切ってゴール。PPをゲット。フロントローをハッセRTが独占する。

決勝スターティンググリッドはハッセRTのフロントローに続き、3位菊川、4位上原、5位上土風。勢いはあつたものの、2日目でもリタイアを喫した上原は8中、TTで頭領った菊川は17中まで後退。力の差を見せつけられる。